

江北の四季

令和3年

3月3日

第45号



畑の隅で三者の競演。

ホトケノザ、オオイヌノフグリ、
ヒメオドリコソウ



ヒメオドリコソウ

☆ヒメオドリコソウ(姫踊り子草)

十年ほど前はあまり見なかったような気がしますが、近年急に勢力を拡大し、空き地や道端で在来植物を駆逐しているようです。在来種のオドリコソウは、葉は緑色で花も背丈も大きく、花の形が笠をかぶった踊り子の姿を思わせることから名付けられています。このオドリコソウによく似ていて小さいのでヒメオドリコソウ。身近にあるのはヒメオドリコソウばかりで、オドリコソウを見ることがありません。自然が残っている山の近くまでいかないとは見ることは難しいようです。

○啓蟄、蟄虫啓戸

三月五日は二十四節気の啓蟄(けいちつ)。春分の前日、十九日までの時期もさします。

七十二候も七候(啓蟄、初候 三月五日)九日(は、蟄虫啓戸(すごもりのむしとをひらく)です。「蟄」は蟄居(ちつきよ)の蟄で訓読みすると「蟄(かく)れる。「啓」は啓(ひらく)と読み、蟄れていた虫たちが戸を啓いて出てくる季節です。では虫たちはいつ蟄れたのかというと、約半年前、秋分の少し後です。第四十七候(秋分 次候)が蟄虫坏戸(むしかくれてとをふさぐ)となっています。

この場合の「虫」は昆虫だけでなく、蛙、蜥蜴などを含みます。たしかに漢字をよく見るとすべて虫偏です。「春」を書い

て、その下に「虫」を二匹書くと、蠢くです。まさに、あらゆるものが蠢動する季節の到来です。

この頃に鳴る雷を「虫出しの雷」と言うそうです。いつまでも蒲団の中で惰眠をむさばっている、「いつまで寝ているの!」という甲高い声が聞こえてきませんか。虫たちも雷様に起こされてはかきません。俳句では「初雷」「春雷」と言い、春の季語となっています。



ヒマラヤユキノシタの花
常緑多年草。耐寒性が強く育てやすい。大きな葉がほしきときに重宝します。

○菰外し

毎年この啓蟄の日には彦根城のいろは松の菰外しが行われます。菰は、幹で越冬する害虫を藁に集めて被害を防ぐために、立冬の頃に幹に巻かれたものです。伝統的な駆除方法ですが、残念ながら益虫も死んでしまうこととその手間も大変で、今日では菰巻きを見ることが少なくなりました。彦根城では、冬の風物詩として観光客用に行っておられるようです。



セイヨウオキナグサ(西洋翁草)

☆オキナグサ(翁草)の別名はハクトウソウ(白頭草)。花後にできる種に白く長い毛があり、その種が密集して風にそよぐ姿を、老人の白髪に見立てています。これは鉢で買った西洋翁草。自生のものの栽培は難しいらしい。



ヒメリュウキンカ(姫立金花)

☆リュウキンカに似ているのでヒメリュウキンカの名前が付いています。種類は異なります。春になると小さな黄色い花が咲き、夏になると休眠します。丈夫で手間もかかりませんが、増えすぎて困ったことがあります。

○第八候(三月十日〜十四日)は、桃始笑(ももはじめてわらう ももはじめてさく)。
昔は「笑う」は「咲く」と同じ意味だったようです。春の季語に「山笑う」というのがあります。里山の木々が芽吹き、梅や桃も咲きはじめ、明るく生気にみちてきます。その様子を「山笑う」と言うと、山が呼吸をしていて、私たちと一緒に春を喜んでるように感じます。

春山淡冶にして笑うが如く、
夏山蒼翠にして滴るが如し。
秋山明浄にして粧うが如く、
冬山惨淡として眠るが如し。

郭熙「がゆうろく臥遊録」

しゅんざんたんやにしてわらうがごとく、
かざんそうすいにしてしたるがごとし。
しゅうざんめいじょうにしてよそおうがごとく、
とうざんざんたんとしてねむるがごとし。

ここから「山滴る」は夏の季語、「山粧う」は秋の季語、「山眠る」は冬の季語となっています。

ふるさと 故郷や どちらを見ても 山笑ふ

正岡子規

☆ユキヤナギ(雪柳)が咲き出しました。名前は、葉がヤナギに似て、白い多数の花が、雪をかぶったように見えるから。小花がたくさんついた姿も美しいですが、秋の紅葉も風情満点です。しだれた枝がほしいときに、もってこいの花材です。



ユキヤナギ(雪柳)



ナズナ

☆ナズナ

春の七草の一つで、ロゼット状の若苗(地面にへばりついている葉)を七草粥にします。名の由来は、「撫^なでる菜」から。別名は、花の下に付いている果実の形が三味線の撥^{ばち}によく似ていることから、ペンペン草、あるいは、シャミセングサ(三味線草)。田畑や道端など至るところに生え、春から夏にかけて白い花と三角形の果実をつけます。庭や畑に出てきたナズナを放っておくとすぐに繁茂するのでピンボウグサ(貧乏草)の別名もあります。家が落ちぶれることの表現に「屋根にペンペン草が生える」と言いますが、ナズナの種は風で舞い上がったり、鳥に運ばれたりはないので、屋根に生えることはないということです。

よく稔^{みの}った花茎を取り、果実をそーと下向きに引っ張って、茎と果柄を少し剥^はがして振るとシヤラシヤラと音がします。昔の子供は春の田圃^{たんぼ}でよく遊んだものです。

☆クリスマスローズ

その名のとおりに、クリスマスローズの頃からバラに似た花を咲かせることから名付けられています。和名はカンシヤクヤク(寒芍薬)やハツキオコシ(初雪起こし)。日陰や寒さに強く、冬の花が少ない時期に花を咲かせ、種類も多いので、ガーデナーのお気に入りです。残念ながら花は下を向いているので、生け花には使いにくいです。



○待ちに待った地のサンシュユが咲き出しました。ひねた枝をたくさん準備して、生花別伝の稽古です。まずは上段流し。ピシッ、ピシッ、ピシッ、……、数センチ刻みに折って、まっすぐの枝を流しました。



上段流し

次に、中段流し。副^{そえ}になりそうな枝つきを探し、理想の形を追い求めて、また、ピシッ、ピシッ、ピシッ、……。



中段流し

三瓶目は、又木を強引に寸胴(竹の花器)に入れて、ピシッ、花器が縦にひび割れ!



前副

最後は下段流し。さすがに疲れました。



下段流し

